

中国人留学生受け入れ

7月に中国人留学生の劉昕恬（りゅう・しんてん）さんが帰国し、新たに9月12日より、第11期生の郭倩鈺（かく・せいぎょく）さんの受け入れが始まりました。国際教養科1年7組に入り、毎日元気よく登校しています。ホームステイ先は同じクラスの河村さんのお宅にお願いしました。

郭さんは優しく穏やかな性格で、笑顔のとても素敵な生徒です。学校ではすべての授業に出て、テストもすべて受け、行事もみんなと一緒に参加することになっています。

中国人は信じられないくらい勉強します。中国の学校では、朝7時半くらいから夜の8時頃まで授業があるのが一般的で、勉強一筋の生活を送っているそうです。これから、日本語の習得に加え、日本の文化、習慣を学び、将来的には日本の大学へ進学するのが夢だそうです。

郭さんは来年の7月下旬まで日本にいます。生徒の皆さんには是非仲良くして、いろいろと教えてあげて欲しいと思います。と同時に、中国人の勤勉さをぜひ見習って欲しいと思います。日中友好に役立つ交流ができることを期待しています。

国際教養科2年生の授業の一コマ

国際教養科2年生では現在コンピュータ・LL（アクティブ・イングリッシュ）の授業で、「模擬国連」の活動を行っています。「模擬国連」とは文字通り本物の国連を真似して、生徒がある国の代表になりきり、自国が抱える問題を解決するために、他国と協力しながら国連の会議の場で解決策を提案し、討議し、最終的には投票で採択を決めるというものです。

「模擬国連」への取り組みは9月初旬から始まり、まず練習として、国連の場で提供するランチのメニューを提案する活動を行いました。2人ペアになり国を決め、その国特有の料理を調べ、原材料を調べ、協力できる国を探し、3国あるいは4国でグループを作り、ひとつのまとまったランチメニューを提案し、最終的に投票でベストメニューを決めました。グループ内のすべての国の何らかの素材、食品が使われるようメニューを工夫しました。



発表風景



ランチメニュー

「国連ランチメニュー」の後は、今年の全国高校模擬国連大会のテーマである“Cyberspace”（「サイバー空間」）についてプレゼンをします。テーマが非常に難しく、何を、どう提案したらよいか悪戦苦闘しています。